

2012年度 修士論文

東日本大震災を教訓とした最大クラスの
地震・津波に関する減災を目指した
高知海岸における堤防構造の研究

Study On The Bank Structure In Kochi Coast Aimed At The Disaster
Reduction of The Largest Earthquake And Tsunami Damages Which Considered
The Great East Japan Earthquake

2013年3月

主指導教員 島 弘
副指導教員 福田 昌史

高知工科大学大学院 工学研究科 基盤工学専攻
社会システムマネジメントコース 1157003
岡林 福好

東日本大震災を教訓とした最大クラスの地震・津波に関する
減災を目指した高知海岸における堤防構造の研究

要 旨

太平洋沿岸においては、フィリピン海プレートの沈み込みにより周期的に南海トラフの巨大地震・津波が発生してきている。

特に今後 30 年以内に 60%以上の確率で発生するとされている東南海・南海地震の想定は、2003年中央防災会議を基に計画している。

しかし、平成23年3月11日の東日本大震災を受けて、平成23年9月に中央防災会議東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会(報告)の中で、津波対策の構築にあたっては、基本的な二つのレベルの津波を想定することとなり、平成24年3月には、最大クラス津波が内閣府から公表された。

こうした状況の中、高知海岸は、背後地に「地方拠点都市地域」の高知市をはじめとして、高知龍馬空港のある南国市、土佐市、香南市をかかえ、人口・資産が集中する重点整備地域となっていることから、地震・津波に対する早急な対策に必要な地域ごとの津波高の設定及び地震・津波に対応した構造の構築が急がれている。

